

講義名	言語学特論演習
Name of Course	Advanced Seminar in Linguistics
担当教員 / Instructor	長谷川 信子(ハセガワ ノブコ)
単位数 / Credit	4
学期	後期

使用言語 Language	日本語(時々 英語)
語学基準 Language Level	指定無し
授業の目的 Course Descriptions & Objectives	<p>博士後期課程のゼミ。今年度は、修士の「日本語統語論」との乗り入れとなるが、博士後期の学生向けには、以下の観点から必要に応じて、個別指導する。</p> <p>日本語と英語を中心にした比較統語研究の観点から、言語の理論的研究の成果を建設的、批判的に考察し、受講生各自の研究トピックテーマを発展させつつ理論構築に貢献することを目的とする。受講生の研究テーマに不可欠と思われる先行研究を精読するとともに、理論の最近の動向についても考察する。同時に、統語理論研究と言語教育の関係にも目配りする。</p> <p>本講義の統語論は生成文法の基本を踏襲するが、生成文法はその発祥から50年以上が経過し、文の構造構築とその操作は、語彙範疇よりむしろ、意味が判然としない機能範疇の働きによることが分かり、その解明が統語理論の中心課題となってきた。特に、統語部門と接点を持つ語彙・レキシコン、および語用論とのインターフェイス、統語部門と語用部門とのインターフェイスの現象の把握・分析から機能範疇の役割が解明される期待が持てる。特に、日本語はそうしたインターフェイスに関わる現象が豊富であり、その点でも、日本語から理論への貢献の可能性は高く、これまでの理論研究(標準理論、拡大標準理論、GB理論などの枠組み内)での一般化と、それと関わる膨大な経験的事実を、機能範疇の観点から、再検討し、理論的にも日本語学の記述的研究にも貢献できる力を養う。</p> <p>また、言語教育においても、機能範疇と関わる現象や規則性はインプットからだけで学習者が習得できることは稀で明示的に指導される必要がある。タスクやコミュニケーション重視の言語教育が志向される中、言語能力の中核としての文法能力を機能範疇の観点からL1とL2の体系、さらに、学習者の中間言語体系のあり方を考察する意義を再認識する必要があると思われる。</p> <p>This is a seminar for doctoral students. This lecture class is primarily based on</p>

	<p>generative syntax but will refer to descriptive works in Japanese grammatical studies. Theoretical syntactic studies and descriptive Japanese language studies differ in their aims of research but can learn a lot from each other and develop further by taking into consideration the insight of the other. The students are encouraged to pursue their own research interest. The students are expected to write at least two papers that are presentable at conferences.</p>																								
<p>サブタイトル Subtitle</p>	<p>生成統語論と日本語記述文法との融合を目指して</p>																								
<p>授業の計画 Lecture Topics</p>	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>理論言語学とは？ 特に、統語論と記述日本語学の相違について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>言語研究における基本体系のあり方を考える(統語と意味の関係)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>文の基本構造の構築－1(句構造の基本を把握、Xバー構造、語彙範疇と機能範疇)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>文の基本構造の構築－2(各自課題を通して、Xバー構造、項構造、格関係を把握・確認する) 機能範疇の役割</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>構造変換操作概観－1(構造を変換するプロセスを英語と日本語の現象から考察)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>構造変換操作概観－2(構造を変換するプロセスと様々な構文) Wh句の移動、「は」と「が」</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>構造変換と移動の条件</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>日本語の統語現象の分析－1 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&amp;プリント</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>日本語の統語現象の分析－2 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&amp;プリント</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>日本語の統語現象の分析－3 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&amp;プリント</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>日英語の統語現象の分析－1 (語と形態のインターフェイス: 自他の対応、動詞のタイプと構造、結果構文)テキスト第3章&amp;プリント</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>日英語の統語現象の分析－2 (語と形態のインターフェイス: 自他の対応、動詞のタイプと構造、結果構文)テキスト第3章&amp;プリント</td> </tr> </table>	第1回	理論言語学とは？ 特に、統語論と記述日本語学の相違について	第2回	言語研究における基本体系のあり方を考える(統語と意味の関係)	第3回	文の基本構造の構築－1(句構造の基本を把握、Xバー構造、語彙範疇と機能範疇)	第4回	文の基本構造の構築－2(各自課題を通して、Xバー構造、項構造、格関係を把握・確認する) 機能範疇の役割	第5回	構造変換操作概観－1(構造を変換するプロセスを英語と日本語の現象から考察)	第6回	構造変換操作概観－2(構造を変換するプロセスと様々な構文) Wh句の移動、「は」と「が」	第7回	構造変換と移動の条件	第8回	日本語の統語現象の分析－1 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&プリント	第9回	日本語の統語現象の分析－2 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&プリント	第10回	日本語の統語現象の分析－3 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&プリント	第11回	日英語の統語現象の分析－1 (語と形態のインターフェイス: 自他の対応、動詞のタイプと構造、結果構文)テキスト第3章&プリント	第12回	日英語の統語現象の分析－2 (語と形態のインターフェイス: 自他の対応、動詞のタイプと構造、結果構文)テキスト第3章&プリント
第1回	理論言語学とは？ 特に、統語論と記述日本語学の相違について																								
第2回	言語研究における基本体系のあり方を考える(統語と意味の関係)																								
第3回	文の基本構造の構築－1(句構造の基本を把握、Xバー構造、語彙範疇と機能範疇)																								
第4回	文の基本構造の構築－2(各自課題を通して、Xバー構造、項構造、格関係を把握・確認する) 機能範疇の役割																								
第5回	構造変換操作概観－1(構造を変換するプロセスを英語と日本語の現象から考察)																								
第6回	構造変換操作概観－2(構造を変換するプロセスと様々な構文) Wh句の移動、「は」と「が」																								
第7回	構造変換と移動の条件																								
第8回	日本語の統語現象の分析－1 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&プリント																								
第9回	日本語の統語現象の分析－2 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&プリント																								
第10回	日本語の統語現象の分析－3 (語と形態のインターフェイス: 受動文・可能文・使役文)テキスト第2章&プリント																								
第11回	日英語の統語現象の分析－1 (語と形態のインターフェイス: 自他の対応、動詞のタイプと構造、結果構文)テキスト第3章&プリント																								
第12回	日英語の統語現象の分析－2 (語と形態のインターフェイス: 自他の対応、動詞のタイプと構造、結果構文)テキスト第3章&プリント																								

	第 13 回	機能範疇-1 CP 構造と機能、主文現象(疑問文、命令文、主題)				
	第 14 回	機能範疇-2 CP 構造と機能、主文現象(主語の省略)				
	第 15 回	機能範疇-3 CP 構造と機能、従属節(条件節、関係節)				
	第 16 回	機能範疇-4 CP 構造と機能、従属節(補文と副詞節、文の階層性)				
	第 17 回	機能範疇-5 IP 構造、時制とアスペクト				
	第 18 回	機能範疇-6 IP 構造、時制とアスペクト				
	第 19 回 ~ 第 30 回	以下、日本語の統語現象を、参考文献に含まれている論文を、受講者の研究興味と関わるものを中心に読み込みながら、受講者の発表と講義により考察する。				
テキスト Textbooks	番号	書籍名 Title	著者 Writer	出版社 Publisher	出版年 Published the year	ISBN
	1	『生成日本語学入門』	長谷川信子	大修館 書店	1999	
	2	『プリント』				
参考書 Reference Books	番号	書籍名 Title	著者 Writer	出版社 Publisher	出版年 Published the year	ISBN
	1	『日本語の主文現象:統語構造とモダリティ』	長谷川信子 (編)	ひつじ 書房	2007	
	2	『70年代生成文法再認識』	長谷川信子 (編)	開拓社 出版	2011	
	3	『統語論の新展開と日本語研究』	長谷川信子 (編)	開拓社 出版	2010	
成績評価の方法 Grading	課題(30%)、期末論文(50%)、授業への貢献度(20%)					

<p>その他</p> <p>Additional Comments</p>	<p>自らの研究トピックと関わる論考を、自ら広く、深く読み込み、博士研究に向けた基盤を確立させること。</p>			
<p>参考 URL</p> <p>Reference</p>	<p>番号</p>	<p>表示名 Site name</p>	<p>URL</p>	<p>説明 notes</p>
<p>1</p>		<p><a href="http://n-hasegawa.my.coocan.jp/">http://n-hasegawa.my.coocan.jp/</a></p>		<p>関連する論文が搭載してある</p>
<p>注意事項</p> <p>Instructions to Students</p>	<p>博士後期課程の演習である。既に、自らの博士論文のテーマに向けて、絞り込むと同時に関連分野を広く考察し、研究内容充実に向けての計画を念頭に授業に臨むこと。</p>			